

繋がる給田・強い給田

～コミュニティ・スクール4年目を振り返って～

世田谷区立給田小学校 学校運営委員会通信

平成22年度 第9号
平成23年3月10日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健

1月13日、校長室において第9回
学校運営委員会が行われました。

最初に土橋校長より、「来年度は、教職員へのビジョンの周知とビジョンに基づいた教育活動の推進など、CS（コミュニティ・スクール）としての給田小に教職員全体で取り組みたい」との話がありました。

また、教職員で行う学校評価を踏まえ、来年度の学校経営方針として、保護者参加型の授業、教育ボランティアの推進、教科担任制の継続、9年教育の試行、校内研究の充実などが示されました。

続いて委員長から今後の課題について次のような話がありました。

「給田小では、もともとPTAやボランティア活動が活発だったので、運営委員会の下に実働を担うような新たな組織をつくっていない。学校運営委員会と教職員やPTAとの間に意識のずれが出てこないように常にビジョン

を意識しながら、今やっていることをCSという視点で見直し、普段の活動一つ一つをCSという全体像のなかで意味付けていくことが重要である。9年教育についても同様の活動が必要。取り組むにあたってそれぞれの学舎で、そのような意味付けをすることが重要である。」

今回の運営委員会では、「ビジョンの共有」と「活動の意味付け」をキーワードに、来年度どのような活動をしていくかを具体的に考えることになりました。

2月3日、校長室において第10回学校運営委員会が行われました。

前回の運営委員会を受け、委員からは、「教員とビジョンを共有するためにはどうすればよいのか。夏のフリートークそのものはよかったが、そこから広がりにくかった。もう少し先生方とかかわりたい」「単P研修会のテーマを『コミュニティ・スクール』にし

たり、PTAの学代委員会等でビジョンを説明する機会をつくったかどうか」「ボランティア会議を行い、ビジョンを共通理解する場を設け、CSとしてのボランティア活動ができるようにする」などの意見が出されました。

さらに「学校公開週間で事前に授業内容の案内を出してもらっているのはありがたい。親として心構えができるし、先生方の、授業を多くの方に見てもらいたいという熱意が伝わってくる」「様々な取組みによって、子どもがどう成長したか、変わっていったかを伝えていくことが大切」など、今後の活動方針にかかわる意見が多く出されました。

これらの意見を受けて、委員長から、「『みんなの子どもをみんなで育てる』ことを出発点にする。自分の子どもがよくなるためには、隣のクラスや前後の学年もよくなっていかなければいけない」と、視野を広げることの必要性が強調されました。

最後に、「メンバーが変わったらぜひ口になってしまわないで、今までの取組みがもとになって、その上に重ねていくことができるようになることが大切」という話で、この日の委員会を締めくくりました。

3月3日、校長室において第11回学校運営委員会が行われました。

今年度最後の運営委員会ということで、委員長からこれまでの4年間の活動を総括し、CSになって変化したことや今後の課題についてお話がありました。（2ページ「教えてー井上先生」参照）

今回の委員会には、お一人の先生が出席してくださいました。委員長から「みんなでCSの活動に取り組むことは、子どもたちの学力向上にもプラスの効果があるはず。先生方の普段の活動にぜひ、CSという視点を取り入れていただきたい」とのエールがありました。運営委員会では、今後も多くの先生方との相互理解を深めていきたいと考えています。

今年度で運営委員を卒業する委員からの「地域の一員として、それぞれの立場で運営委員会に協力していきたい」という感想に対して、委員長より「CSのビジョンをよくわかっているみなさんが、地域からどのように給田小にかかわっていくかによって、給田小の未来が決まります。期待しています」との激励の言葉があり、平成22年度の学校運営委員会が終了しました。

議題

第9回 学校運営委員会
H23.1.13

- 1 校長より
(1) 来年度のコミュニティ・スクールとして基本方針
(2) 学校評価より
- 2 委員長より
- 3 各委員より
- 4 学校運営委員会通信
合併号の確認

出席者 井上 清水 岡本 若林
多田 土屋 竹越 善方
土橋 安齋 鈴木
見学者 大林正史さん
(筑波大学大学院生)

議題

第10回 学校運営委員会
H23.2.3

- 1 来年度の活動についての意見交換
- 2 委員長より
- 3 学校運営委員会通信
9号の内容の確認

出席者 井上 清水 岡本 若林
多田 土屋 土橋 安齋
鈴木
見学者 大林正史さん
(筑波大学大学院生)

議題

第11回 学校運営委員会
H23.3.3

- 1 校長より
- 2 委員長より
4年間の活動の総括
- 3 各委員より
4年間の活動を振り返って

出席者 井上 清水 岡本
若林 多田 土屋
竹越 善方 土橋
安齋 鈴木
オブザーバー 教員2名

教えてー！井上先生



CS（コミュニティスクール）に指定されて4年！

その間の変化や成果、そして来年度への課題についてつかがいました。

Q、CS化されたことで、給田小にどんな変化があったと感じられていますか？

A、CSになる前と後の変化を明確に知ることのできる数値データは残念ながらほとんどありません。しかし、さまざまな機会に関係者へのヒアリングをしてみると、教育活動に対する意識や態度が少しずつではありますが着実に変化している様子が窺われます。

Q、それは例えばどんなことですか？

A、ある委員が運営委員会でこんな報告をしてくれました。

1年生の小物作成のお手伝いに参加した時に、担任の先生が言った「お母さん」の言葉に対し、「ほくのお母さんは来てないよ。」と言っていました。すると先生は、「ここにいるお母さんたちは、『みんなのお母さん』として来てくれてるんだよ。」と話していました。その言葉を聞き、先生方に地域運営学校の意味が浸透し始めていることを実感し、とても嬉しく思いました。

「みんなのお母さん」。気に留めなければ、そのまま聞き流してもおかしくない言葉です。その何気ない会話に「地域運営学校の意味」を見いだせるようになったことが、CSへの変化なのではないでしょうか。

Q、給田小はCSに指定される以前から学校と保護者・地域の関係は良好だったと思いますが、その点は新しい展開があったのですか？

A、CSになったことで、新しいこと（例えば、サマースクール）が始まったということだけではなく、これまでの良好な関係がさらに深まっていることが重要です。

別の委員は、漢字検定のボランティアをした時の感想を次のように述べています。

漢検によって得られるものは、漢字の知識、資格の習得だけではありません。子どもたちにとっては、いろいろな大人とふれあうことで、まわりに助けられ、見守られているという安心感を得る機会なのです。

CSになったから、ボランティアが増えた、子どもが漢字を勉強するようになったというような「目に見えるわかりやすい変化」ではなく、その背後の《目に見えない子どもと大人、大人と大人の関係性の変化》に目を向けていかなければ、CSの本質は見えてこないのではないのでしょうか。

Q、学校の伝統や特色を変えないためにCSが導入されたと聞いていますが？

A、校長がCSに手をあげた理由のひとつに「伝統や特色を繋いでいく」ことがあります。校舎改築で中断されていた「はだし（健康教育）」は、学校運営委員会の提案もあって、復活することになりました。第7号の大本先生へのインタビューを読むと、

教職員は週に1日でもいいと思っていただけの日は、子どもたちによって週3日になり、はだしカレンダーがつくられ、表彰されたりしながら、上級生から下級生に広がっています。先生方の予想を越えて、子どもたちの手で「はだし」が発展していることはうれしい成果ですね。

Q、主役は子どもということですね？

A、そうですね。CSという点、保護者や地域住民の連携が中心となりますが、忘れてはならないのは、そこに子どもたちがどのようにかかわっていくかであり、そここそCSの真価が問われます。

Q、最後に、来年度の課題とメッセージをお願いします。

A、給田小のCSの特色は「ビジョン」です。そのビジョン作成に関わった委員の交代時期が近づいています。CSの共通理解は広がりつつありますが、まだ十分とはいえません。この4年間の活動を継承・発展させるためには、学校運営委員会が教職員組織やPTAあるいはボランティア・グループといかに連動・協働していくかが鍵となります。

公立学校はどこも同じと思われがちですが、そのようなことはありません。長い年月の中で、人ひとの営みの中で、その地域ならではの学校の雰囲気や特色が生まれてきます。真の意味で「地域に根差した学校」にすることがCSであるとするならば、それは自分たちの地域と学校を見つめ直し、改めて学校づくり、コミュニティづくりに取り組んでいくことに他なりません。そうした観点から、給田小のCSをみんなで一緒につくってまいりましょう。

甲州街道・給田交差点が「歩車分離信号機」に変わりました



2月28日(月)～3月4日(金)
15:00～17:00
歩行者が交差点に慣れるまでの間、地域の方やPTAの皆さんが警察と一緒に旗持ちを行いました。

たびたび大事故が起っていた、甲州街道の給田交差点(通信5号でもお伝えしました)の信号機が、2月25日より「歩車分離信号機」に変わりました。

これは、「この交差点で二度と痛ましい事故がこらならないように」との近隣の幼稚園・小学校・中学校のPTAによる要望が叶ったものです。

歩車分離式信号機とは、車両と歩行者の交差をなくすように現示を行う方式の信号機で、左折巻き込みの事故が減ることが期待されます。けれども、事故がゼロになるかどうかはまだわかりません。

それは、この信号がついたことにより、吉祥寺通りを吉祥寺方向から給田交差点にむかう車の渋滞がおこることが予想され、給田小付近を抜け道に利用する車が増加すると懸念されるからです。

事故を防ぐためには、ひとりひとり交通安全を心がけることが大切です。歩車分離信号機になったことを契機に、ご家庭で交差点について話をしてみたいかがでしょうか。



「これから」も 給田小学校のサポートをよろしくお願いします！



H19年度
岡本 文恵

「学校」や「地域」という言葉を何回使ったことでしょうか。給田小のこと、自分の住んでいる地域のことを考え続けた4年間でした。サマースクールやボランティアでは、たくさん子どもたちに関わって、たくさん大人の方と知り合うことができました。4年間の活動を通して、「繋がる給田、強い給田」というスローガンどおり、人とつながることで、強いつかりとした学校・地域になるのだということを実感しました。



H19年度
竹越 学

学校運営委員を、2期4年務めさせていただきました。活動を振り返ると、給田小学校の特徴を活かした地域運営学校の礎は築けたと感じています。地域運営学校の取組みは、結果を求めるだけでなく、その過程こそが、地域や学校、児童の宝物だと思いますので、来年度以降も過程を大事に活動ください。最後にありますが、微力な私を支えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

地域運営学校って何??
から始まった4年間でした
皆さま
の疲れさまでした



H19年度
清水 啓子

長男が給田小学校に入学したのが平成6年です。今年度で17年間給田小学校に通い続けたことになりました。「古狸」の域を越えています(笑)。

そして運営委員になって4年目の今年は、地域と給田小を結ぶネットワークを作ることを目指して、「学校運営委員会通信」を発行しました。紙面の上で、給田・烏山にあるいろいろな「コミュニティ」が繋がっていき面白さは、今までに体験したことのないものでした。

取材に気持ち良く協力していただきました地域の皆様、PTAの皆様、先生方に深く感謝いたします。素敵なお話を描いてくださった宮塚今日子さん、ありがとうございます。



H19年度
田中 龍次

「地域運営学校」、初めて聞く言葉に戸惑いながらも、運営委員として改めて自分なりに学校と地域のパイプ役を考えた4年間でした。町会の行事などに楽しんで参加している子どもたち、それを嬉しそうに見ている地域の方がた。この4年間に何度もそんな場面に会い、地域に「コミュニティがあること」の大切さを実感しました。



H19年度
田中 新也

給田小卒業生として運営委員になって4年。委員とは名ばかりで、皆さんにご迷惑をおかけしっぱなしでした。この場をお借りしてお詫言わせて頂きます。と、このまよいと反省文になってしまいそうです。

私は現在、給田地域からは少し離れた所に住んでいます。たまに実家に帰るとマンションが建ったり、商店街が変わっていたり、少しずつ景色が変わっていることを寂しく思います。私の学び舎も無くなり、新校舎が建ちました。しかしながら、ここには私が子どもの頃と同じ景色が映ります。今も昔も変わらない「人の強い繋がり」、給田人のもつこの力がそびえているのでしょうか。「繋がり」、きっと他にはない素敵な力だと私は思います。



H21年度
善方 美枝

未就学児の保護者として学校運営委員になり、2年が経ちました。委員会に出席したりボランティア活動に参加していく中で、多くの方がたや子どもたちと出会い知れなかったことを、何よりも嬉しく思っています。学校を訪れた時や近所で、手を振ってくれ子どもたちがいたり、立ち話をする知り合いがいることを幸せに感じています。地域の方がたや子どもたちと仲良くなれるよう、さり気なく後押しをしてくれる学校運営委員会、これからはひとりの保護者として応援していきます。

「世田谷9年教育」パイロット校報告会

2月5日(土)世田谷区民会館において、世田谷9年教育の概要の説明と、4グループのパイロット校の発表がありました。この日の午前中、給田小は学校公開日でしたが、午後、多くの先生方が会場に駆けつけました。

すでに9年教育の取組みを進めているパイロット校の発表を聞いて、そのグループごとに組織や運営方法などが違って、各グループの実情に合わせ、見直しをしながら活動している様子が分かりました。

児童が全員同じ中学校に行く場合、小中の連携はとりやすいですが、給田小のように2つの中学校に分かれて進学する小学校にとって、2つの中学校と連携していくためには、より一層の工夫が必要となります。世田谷区の小学校の約4校に1校は、複数の中学校に進学します。そういった小学校は、現実的にどう取り組んでいけばいいのか、画一的なものではなく、学校の事情を考慮しなければなりません。

パネリストの玉川大学教職大学院教授の小松郁夫先生からは、「先生方にとって9年教育は、課題も多いいけれど、新しい気付きがあり、ワンランク上の指導力につながる。」というお話がありました。どのような「給田小版の9年教育」をつくるのか、先生方だけでなく、子どもたちの意見も取り入れ、保護者、地域も一緒に考えていく必要性を感じました。

学校運営委員 岡本文恵

烏山わんわんパトロール



2月21日、月曜日に
行われている全校朝会
で、隊員の皆さんが愛
犬とともに、「烏山わ
んわんパトロール」の
活動を紹介しました。
隊員の方から
「私たちは、お揃いの
パンダナとお散歩パッ
グを身につけて犬の散
歩をしています。登下
校の時に見かけたら、『
こんにちは』と挨拶をしまし
ようね。挨拶がたくさん交わ
される地域には、悪い人が来
なくなりそうです。お家で犬を
飼っている人がいたら、一緒
に挨拶をする仲間になりませ
んか』と呼びかけがありました。

「わんわんパトロール」とい
っても、何か必ずしも特別なこ
とをするわけではなく、も
ちろん特別なワンちゃんでも
ありません。皆さんがいつも
の愛犬のお散歩の時に、子
どもと隊員、隊員同士の目印
となるパンダナなどを身につ
けて挨拶をする活動です。そ
れが、犯罪者が入りにくい地
域を作り、犯罪への大きな抑
止力となります。また、子ど
もも多くの大人に見守られて
いる安心感があります。現在
、全国に広がっている「わん
わんパトロール」の隊員が、
残念ながら減ってきていま
す。

「みんなの子どもをみんなで
守る」ために、給田小の皆さ
んの参加を心よりお待ちして
います。



お問い合わせは、副校長先生までお願いいたします。

昔遊び体験授業



民生・児童委員15名(烏山西地区12名、東地区3名)、世田谷区青少年委員3名、給田小新BOP3名、烏山児童館職員2名と館長、大場加枝子さん(折り紙)、滝澤直幸さん(竹トンボ)、市原勝信さん(紙飛行機)、池亀安衛さんと矢後浩さん(けん玉)、麻生優さん(まりつき)

「昔遊びを教えよう」とい
う、1・2年生の交流授業
があります。数年前から毎
年行っているこの授業は、
2年生が1年生に昔遊びを
教えるというものです。2
年生は教えることにより3
年生になる自覚が芽生え、
1年生は教えられる2年生
に憧れを抱くと同時に、来
年は自分が教える側になる
んだという目標を持って授
業でもあります。

この授業にさきがけ、2月
4日、地域の方がたをグ
ェストティーチャーにお
迎えし、2年生に昔遊びを
教えていただきました。ま
すは自分たちがきちんと
昔遊びができるようにし
ようという取組みです。

今年、世田谷区青少年委員
で給田小の学校支援コー
ディネーターの麻生小百
合さんのご尽力により、約
30名の地域の方がたが来
て下さいました。保護者ポ
ランティアには、この日
だけでなく「昔遊び」全
5時間すべての授業のお
手伝いをお願いしました。
地域の方がたの自己紹介
が終わると、子どもたち

ちはわれ先にと迎えに行きま
す。みなさんの素晴らしい技に、
自然と子どもたちの目も輝
きを増し、次第に集中してい
きました。説明やアドバイスを一言も
もらさずまいと耳を傾け、少
しでも技を覚えようと真剣に
練習を重ねていました。ほん
の30分ほどでどの子ども
もとても上達しました。残り
の時間は、自分の担当外の遊
びを各々体験しました。



その後、子どもたちは、地
域の方と一緒に、たくさん
会話をしながら楽しく給
食を食べました。折り紙を
たくさん折りプレゼントし
ている子、しっかりと手をつ
ないでおしゃべりしている
子、率先して給食を運んで
くれる子。どの教室にも、
笑い声がたくさんあふれて
いました。

地域の方がたと触れあ
った2年生は、いろんなこ
とに気付いたようです。そ
れは遊びの教え方だけでは
ありません。相手への心遣
いや周りへの気配り、人
としての大切な思いやりの
心を学びました。

今回の授業は、子ども
たちにとっては保護者や担
任以外の大人と触れあ
い、多くの事を学ぶ機会
となり、地域の方には学
校や子どもたちをよ
り近い存在と感じて
いただけたのではないかと
思います。



後日、子どもたちは地域
の方がたにお礼状を送り
ました。喜んでくれる顔
を想像しながら一生懸命
作っていました。

今回の昔遊び
竹トンボ、まりつき、紙飛行機、あやとり、折り紙、羽つき、こま、めんこ、お手玉、けん玉、だるま落とし

あとがき

給田小学校が地域運営学校に指定されて4年が過ぎようとしています。地域・保護者と一体になって、新しい公立学校をつくっていく。それはどういふことを模索した4年間でした。その答えを見つけるためには、私たちの長い学校生活の経験に基づき、これまでの学校のイメージを変えていかなければなりません。それはかなり困難な作業であり、だからこそ多くのミニミニ・スクールが、その行先を迷っているのです。

給田小学校運営委員会の強みは1年目に「地域運営学校としての3つのビジョン」をつくり上げたことにあります。地域運営学校になることで、私たちは何を目指し、どんな活動をしていったらいいのかが、それをビジョンに示しました。2年以降は、ビジョンを目標にして少しずつ歩を進めてきました。ひとつの区切りである4年間を終え、学校運営委員会のメンバーが大きく変わります。けれども、これまでの活動を踏まえ、3つのビジョンを継承していくことは変わりません。

給田小学校は「みんなの学校をみんなでつくっていく」「みんなの子どもたちをみんなで育てていく」学校です。地域運営学校の取組みを通じて、私たち給田に関わるすべての大人の思いや願いが時間的にも空間的にも広がっていきます。それが私のめざす「繋がる給田、強い給田」です。

退任される委員の皆様、本当にありがとうございました。活動のフィールドをさらに広げて、今後ともサポートしていただきますようお願いを申し上げます。最後になりますが、通信の取材に快く応じていただいた皆様、記事や話題を提供してくださった皆様、イラストを描いてくださった皆様、そして、一年間通信を愛読してくださったすべての皆様、感謝いたします。これからも給田小学校をどうぞよろしく願います。

校長 土橋稔